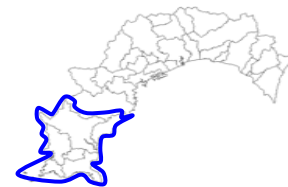


中間評価

対象事業No.4：「幡多けんみん病院」へのアクセスを改善する道路整備



事業の目的 「幡多けんみん病院」へのアクセスを改善

地域の医療拠点である「幡多けんみん病院」へのアクセスを改善するため、幹線道路やそれにつながる補助幹線、毛細血管となる市町村道の改良を行うとともに、既存道路の有効利用を図るための修繕等を行う。

当地域内の道路は国道56号及び321号以外は非常に改良率が低い。地域の人々は、安心して生活できるよう、緊急の場合にも幹線国道に早急にアクセスし、3次医療施設である「幡多けんみん病院」での治療が受けられるように、道路整備を望む声が大い。

【整備前の課題(県民ニーズ)】

幡多けんみん病院の60分カバー圏域の拡大
観光エリアの拡大

移動時間の短縮

「ゆとり時間」の創出

指標算定の考え方

道路を利用する人が得られる「ゆとり時間」
 $ゆとり時間 = (短縮時間 \times 交通量 \times 乗車人数) / 恩恵人口$
 短縮時間：整備による移動時間の短縮
 交通量：整備区間の自動車交通量(H11センサス)

【効果その1】 幡多けんみん病院の60分カバー圏域の拡大

60分カバー圏域¹の市町村の現状

幡多地域の面積は約1,925km²(>香川県1,876km²)であるが、鉄道など公共交通機関が発達していないため、病院へのアクセスは道路に頼っている。

幡多地域の道路の実情は、地理的条件により道路改良が進んでいない。(足摺宇和海国立公園を含む海岸地域のほとんどは断崖で幅員狭小な道路であり、中山間地域もまた、急峻な山々を通るため、未整備区間が多く、日常生活はもとより緊急活動の支障となっている。)

幡多けんみん病院の患者数

	H17年度	年間	月平均	1日平均
外来患者(人)	207,960		17,330	570
新患者(人)	25,419		2,118	70
救急・時間外(人)	19,538		1,628	54
手術件数(件)	2,038		170	6



参考：パッケージ内人口

平成17年10月1日現在	
	総人口
宿毛市	24,891
土佐清水市	17,311
四万十市	37,680
佐賀町	3,928
大方町	9,514
大月町	6,471
三原村	1,854
合計	101,649



- 市町村(H18・4現在)
- 市町村支所(旧役場)
- 事業箇所
- 事業完了箇所

足摺岬周辺の道路風景(県道足摺岬公園線)



普通車の行違いにも苦慮しており、緊急車輛の通行にも支障をきたしている。



【事例1】県道足摺岬公園線(土佐清水市松尾バイパス)
1車線 2車線バイパスにより輸送・観光バスなど大型車の行違いを可能にし、移動時間の短縮を図った。(約5分短縮)



市中心部

市中心部

体験型修学旅行風景



【事例2】

県道柏島二ツ石線（大月町柏島）1車線 2車線改良により輸送・観光バスなど大型車の行違いを可能にし、移動時間の短縮を図る。



【効果その2】 観光エリアの拡大

幡多地域では、従来型の見る観光ではなく、体験型の修学旅行にH17年度に32校訪れている。このうち、大月町柏島では、特に体験型修学旅行の誘致に力を注ぎ、10校500人余り(内大月町宿泊3校300人:経済効果約5,100千円)が島を訪れた。しかし、島へと繋がる唯一の県道柏島二ツ石線は、未だに大型バスが通行できないため、途中からマイクロバス等によるピストン輸送を余儀なくされている。これを解消することも含めて、当路線に重点投資を図り、早期の供用に向けて取り組んでいる。



【効果その3】H13.9西南豪雨からの復興



西南豪雨により被災

【事例3】

県道宿毛宗呂下川口（土佐清水市長瀬～小馬場）西南豪雨により大きな被害を受けた当路線は、災害に強い道路づくりという考えを基に、新たなバイパス道路として生まれ変わり、住民の安全と安心の確保がされた。

達成度の報告

H16当初現況値	0 (時間/年)
H17末中間目標値	8 (時間/年)
H17末中間実績値	6 (時間/年)

道路整備による時間短縮のさらなる拡大を！

今後の課題など

・足摺岬公園線(赤瀬)及び有岡川登線(横瀬)などで、用地交渉の難航により、事業の遅延があり、当初中間目標値を満足することが出来なかった。しかし、H18当初に懸念用地の目途が立ったため、当初目標達成どおり事業を進捗する。出水時にも緊急車輛の円滑な通行を確保するための市道平田1号線等、「幡多けんみん病院」へのアクセスの改善に資する市町村道事業を要素事業に追加し、住民が安心して生活できるよう見直しを行った。

・県道柏島二ツ石線(柏島)、県道安満地福良線(橘浦～泊浦)の関係機関(国立公園、保安林等)との事業調整による遅延を解消させることが課題。幡多地区内の一般廃棄物が殆ど集積される処理拠点である、幡多クリーンセンター(幡多広域圏3市2町1村により建設)へのアクセス改善を図る。

・今後30年間で発生確率が50%と言われる南海地震等に備え、幹線道路とそれにつながる補助幹線、毛細血管となる市町村道の改良を進め、避難路ネットワークを地域、市町村と協働して構築する。

・「ゆとり時間」の創出により、幡多地域に点在する観光施設や宿泊施設を利用した、観光客等の交流滞在時間の増加を目指す。

